



# にじのはし幼稚園 園だより

平成28年7月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 酒井 正美

きゅうりのはっぱとせいくらべ おおきななすもとれたんだ  
おみずであそぶのたのしいな みんながたのしいようちえん



7月を迎え、1学期末まであと3週間弱となりました。4月の入園、進級のころと比べお子さんの様子はいかがでしょうか。

幼稚園では、これまでの指導や子供たちの成長を振り返り、1学期の評価を行う時期となります。評価、といっても幼稚園では子供たちにテストを行い、理解や習得の状態をみる訳にはいきません。評価の基となるのは、これまでの指導と幼児の記録、そして目の前にいる幼児の実態です。

幼児期の学校教育を行う公立幼稚園では、小学校・中学校と同様に教育課程を区に届け出ています。学級担任は、この教育課程と園長の経営方針を基に、学年・学級経営案を立案します。それを基に1学期の指導計画、もう少し期間を区切った計画、週の計画、日の計画と立案をしていきます。そして、それを基に教育活動を展開していきませんが、ここで小学校以降の学習と違うのは、発達段階です。小学校以降は時間割のある教科学習が主ですが、幼稚園は経験学習です。授業に一定の到達、習得目標があるのとは異なり、幼児一人一人の発達段階や心情を読み説きながら、あるスパンの中で幼児の興味・関心に沿いながら必要な経験が積み重ねられるようにする、ということが行われています。

3歳児では、入園してから初めての社会の中で、我が子がどのように過ごしているのかとご心配なことも多かったことと思います。幼稚園に慣れてきたと思ったら、物の取り合いで泣くことがあったり、相手を叩く、叩かれるといったことも起こったり。思い通りにならず、大きな声で泣くなど、子供たちは実に様々な姿で自分の思いを出しています。

平成30年の幼稚園教育要領改訂・実施予定に向け、幼児期の終わりまでに育てほしい姿として10項目が文部科学省から試案として示されています。その一つ、「道徳性・規範意識の芽生え」では、「よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分かり守るようになる。」とあります。今の3歳児からは、まだまだ遠い姿です。しかし、この姿へと育てていくためには、今、思う存分自分を出しているこの時期が必要なのです。言葉で諭して、頭だけで理解をさせても、残念ながら心は育ちません。今、必要な経験をじっくりと時間をかけて積み重ねるしかありません。相手を傷つけること、危険なことについては、しっかりと大人の価値観を伝えながら、本気でぶつかり合うこと、経験を積み重ねる時間を保証し、経験していることに寄り添い見とってあげることが大切と考えます。自分とは違う、たくさんの人と関わるができる幼稚園だからこそ、育てられることがあります。

1学期、幼稚園の教育活動へのご理解、ご協力をありがとうございました。今学期の教育活動の成果を振り返り、2学期につながる3週間としていきます。

